

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会

広報

チャレンジ!

令和4年3月末日発行
秋田県障がい者スポーツ指導者協議会
〒010-0922
秋田市旭北栄町1番5号
(秋田県障害者スポーツ協会内)
TEL 018-864-2750
FAX 018-874-9467
E-mail:shidousha@akita-sports.jp



県南地区シッティングバレーボール



あ い さ つ

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会

副会長兼研修部長 佐藤茂仁

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなか、私たちの生活様式も大きく変えざるを得ない状況が続いておりますが、会員の皆様には、この一年間、大変厳しい環境のなかで途切れることなく活動を続けられていることと思います。皆様の努力に深く敬服いたします。

2021年には新型コロナウイルス感染症拡大のために延期となった、「東京2020パラリンピック大会」が開催されました。ほぼ無観客での開催となる異例の状況ではありましたが、競技の中継や報道など多くのメディアを通じ、広くパラリンピックの存在を知らしめる契機となったことは、障がい者スポーツに関わる者として大変嬉しく思うとともに、今後、私たちの活動が地域においてより広まっていくことへの期待と希望をもたらしてくれました。

一方、県内では多くのイベントが中止となり、各団体でも活動を縮小、中止することが余儀なくされているところですが、当協議会では、県内3ヵ所で「地区別実技研修会」を実施することができました。前半は「障害者の特性と支援方法」に関する講義を行い、後半は、県北は「ペタンク（室内）」、中央は「ペタンク（室内）」、県南は「ボッチャ競技」「シッティングバレーボール」の実技研修という内容で行いました。一会場の参加者は少数ではありましたが、その分和気あいあいと、これまでにないコミュニケーションが図られ、充実した研修会であったと感じております。

今後も、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、会員の交流を図り、資質の向上と会員相互の理解を深め、障がい者スポーツの普及・振興のため、充実した会活動に努めてまいりますので、会員の皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様も、自身の健康、安全に十分ご配慮いただきながら、充実した活動を行うことができますことをご祈念申し上げます。

令和3年度 初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

副会長兼指導部長 進 藤 雄 一 (秋田市)

令和3年11月6日・7日・13日・14日の4日間、延べ21時間の養成講習会が今年も秋田県心身障害者総合福祉センターで開催されました。

今年度の参加者は、18歳から69歳までの女性9名男性7名合計16名の方々が受講されました。

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会より、佐藤茂仁副会長が「障がい者スポーツの意義と理念」、橋本高史副会長が「障がい者スポーツ推進の取り組み」、私が「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」について各90分の講義を担当させていただきました。

今年で、指導者協議会で講義を担当するのは、2度目となりましたが、私は人前でお話することに不慣れなため受講者の皆様に十分に理解して頂けたのか、心配になります。受講者の皆様は障がいのある方々を支援したいとの思いを胸に熱心に講義に集中されているご様子に本当に有り難く感謝申し上げます。

また晩秋の時期、県内各地より朝早くからお集まり頂き本当にお疲れ様でした。

平成12年より20年以上にわたり初級障がい者スポーツ指導員養成講習が開催されており、沢山の方々が初級指導員資格を取得され各地域等でご活躍されておりますが、中にはせっかく取得された資格を生かしきれずにおられる方もいらっしゃるのではと思います。是非、秋田県障がい者スポーツ指導者協議会にご加入頂き、私たちと一緒に活動しませんか。

一人でも多くの障がい者の方々とスポーツを通しての爽快、感動、喜び等を伝えていきたいと思っております。

令和3年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習を修了され障がい者スポーツ指導員として認定を受け、障がい者スポーツ公認指導員として当協議会に入会頂きました。

1. 福嶋 諒
2. 小西 夏帆
3. 袴田 清枝
4. 大澤 修
5. 伊藤美代子
6. 青柳 正隆
7. 林崎 重之
8. 石川 久晴
9. 安保由起子
10. 藤田 碧星
11. 富樫 元 (順不同)

地区別実技研修会(中央地区)に参加して

障がい者スポーツ指導員 平澤 富美子 (秋田市)

令和3年12月、心待ちにしていた地区別実技研修会が開催されました。コロナ感染症でほとんどのイベントの中止が続いていたから、有り難く心弾む思いで参加しました。

研修会は講義と実技です。講義の内容は主に、「知的障がいのある人について、その特性と支援方法」でした。知的障がいは外見ではわかりにくいこと、程度も様々で巾がかなりあるため、必要な援助の量や質が個人により大きく異なること、配慮すべき点、コミュニケーションのポイントなどを学びました。

実技は「ペタンク」です。的になる球を投げ、その的の球に近くなるよう球を投げ合うという点が「ポッチャ」と似ています。使用する球が、ポッチャの物よりも固くやや小さめでかなり重いと思いました。研修会の参加者が6名ずつ4組に分かれ、トーナメント形式で、実行委員の方の説明と指導の下、試合が始まりました。とても面白くすぐに打ち解け、作戦を練ったりアドバイスし合ったり、和気あいあいのうちにやり方のコツが身についたようです。「ペタンク」はルールが分かりやすく誰でも気軽に楽しめるスポーツだと思いました。

コロナが早く終わることを願いながら、こうした体験を重ねてより適切な援助ができるようにし、パラスポーツの機会にできるだけ積極的に参加していこうと考えています。

研修会の開催、ありがとうございました。



中央地区 講義



ペタンク競技

地区別実技研修会(県北地区)に参加して

障がい者スポーツ指導員 工藤 清一 (北秋田市)

令和3年12月25日、吹雪舞う悪天候の中、能代市営二ツ井総合体育館において佐藤茂仁先生を講師に「障がいの特性と支援方法」と題して第一部の講義がありました。特に今回は、知的障がいについて「原因と理解」「その特徴とコミュニケーションのポイント」そんなことを学びました。

また、「知的障がい者スポーツの意義」についても触れられて、障がい者がスポーツを行うことによって生じる効果についても、心身機能・身体構造の向上・参加の促進など普段私どもが気が付かない様々なことを教えられました。

また、第二部の実技研修は、高橋次男先生が講師になって、ニュースポーツの「ペタンク」を教えてくださいました。ペタンクは、ルールがポッチャとよくにているが、特別にコートを作る必要がなく、どこでも簡単にプレーできるので子供や老人、障がい者、皆が楽しめるスポーツだと思います。久しぶりに、何度も負けて悔しい思いをしたり、熱中させられたりしました。いずれにしても、午前中という短い研修会でしたが、とても楽しく、また充実した素晴らしい研修会でした。最後に、あの悪天候の中を秋田市から来ていただいた先生方にお礼を言ってペンをおきます。本当にありがとうございました。

地区別実技研修会(県南地区)に参加して

障がい者スポーツ指導員 伊藤 歩佳 (横手市)

令和3年12月12日、横手市で開催された実技研修会に参加しました。コロナの流行にともない、大会なども中止となってしまったため、なかなか活動できずにいましたが、今回居住地で研修会が行われるということを知り、自らのスキルアップのため、参加を決めました。

研修は二部構成となっており、前半は「知的障がいの方の特性と支援方法」について佐藤講師から説明していただきました。支援する上で配慮すべき点やコミュニケーションをとるときのポイントなどを学びました。後半はポッチャとシッティングバレーの実技を行いました。ポッチャでは参加者が二つのグループに分かれてゲームを行いました。「ナイス」「ドンマイ」といった声掛けが聞こえ、終始和やかな雰囲気、ゲームが進んでいました。また、キャリパーを使って球間距離を計測するやり方も教えてくださいました。実際にやってみると難しかったですが、大変よい経験になりました。最後にシッティングバレーのゲームを行いました。私は今回初めて体験しましたが、臀部を床につけたまま移動したり、ボールを拾ったりすることが難しかったです。また、ブロックの際、思わず腰を上げてしまうこともありました。6人制バレーボールのコートより狭いため選手同士の距離が近く、全員でフォローし合いながら戦うところがこの競技の魅力だと感じました。

これからも積極的に研修会等に参加し、専門性を高めていきたいです。そして、障害をもつ一人でも多くの方が「運動は楽しい」と思ってもらえるよう努力していきたいです。



県南地区ポッチャ競技

事務局から

令和3年度を振り返って

副会長兼事務局長 佐藤 涼子 (秋田市)

日頃 当協議会の運営に関しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和3年度を振り返ってみますと昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応からのスタートでした。

年明けから新型コロナウイルス感染拡大に関する情報が毎日のように報道され世界各国で猛威を振るい県内でも感染者が拡大しました。全国障がい者スポーツ大会は昨年に続き中止となり、本県でも各障がい者スポーツ競技大会はほとんど中止、障がい者スポーツ指導員の活動は困難な状況となりました。

当協議会の理事会は5月に開催する事が出来、事業計画の開催についてコロナ禍の中どのような内容で実施出来るか協議しました。総会については感染拡大予防対策として書面議決とし、実技研修会については、市中感染や感染者増加に関する報道が日々伝えられていましたので、安全の確保を最優先とし感染状況で判断することになりました

派遣依頼を受けていた各競技団体からの障がい者スポーツ大会やイベントの中止が事務局に届きました。大会に向けて練習を重ねてこられた選手や関係者の皆さまの思いは、いかばかりと思いました。秋に入り感染者数が減少しコロナ緊急事態宣言が解除されレベル2となった。第2回実技研修会は12月、3密を避け、コロナ感染対策を守り、3地区に縮小し「県南・中央・県北」で実施する事が出来ました。第1回目がコロナ感染予防対策のため中止となっていたので、短期間に3地区全て実施できたことは本当に良かったと思えました。2週間過ぎても陽性の連絡が無かったことで、ようやく安堵したことを思い出します。

この度の地区別実技研修会に関わりをもち感じたことは障がい者スポーツ指導員の活動もコロナの影響を受けている今、感染症の収束が見えない状況下の中「ウイズコロナ」について認識をあらたにした研修会でした。

新年度は当協議会としても、このような社会環境、日常生活が変化している今どのように運営し活動出来るか構築し、また実技研修会や講義等を通しレベルアップを図り、指導力向上に繋がられるよう皆様からの情報提供、ご意見等頂きながら事務局としての役割を努めて参りたいと考えています。皆様のご支援とご協力をお願い致します。



障がい者スポーツ協会 「日本パラスポーツ協会」に名称変更

2021年10月1日、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会は「日本パラスポーツ協会」に名称が変更したことを発表しました。

東京パラリンピックのレガシーを継承し障がい者スポーツの普及振興をはかるために、多くの人に親しまれている「パラスポーツ」に変更。協会の鳥原光憲会長はパラスポーツの名称は、ボッチャ競技などのように障がいの有無に拘わらず誰もが一緒に楽しめるスポーツの普及を促進する上での相応しさもあり、引き続き「パラスポーツの振興を通じた活力ある共生社会の実現」を目指したいとコメントされております。

サークル紹介

ブラインドテニスサークル すまいるあきた 代表 小松 由佳

1. **Q ブラインドテニスとは**

A 視覚に障害があっても、宙に浮いた音源入りのスポンジボールをテニスラケットを使ってネット越しにラリーする日本生まれのスポーツです。

目を閉じた状態で音源入りのボールが行き交う場면을想像してしてみてください。

2. **Q 会員数、何曜日、練習会場について**

A 会員数 視覚障がい者は10名。女子テニス連盟からのボランティア約5名

練習日 毎週日曜日 13時から16時30分

練習会場 秋田県心身障害者総合福祉センター 体育館

(練習日は体育館の予約状況によりお休みの場合があります。)

3. **Q 見学または、支援が必要か**

A 見学、ボランティアは何時も大歓迎です。

私達は自分が打ち返したボールの位置が見えません。

教えて頂けると助かります。

視覚による確認が難しい為、ボランティアや見学希望の方は、事前に代表、小松までご連絡頂きたいと思います。

ブラインドテニスサークル すまいるあきた 代表 小松 由佳

メール：smiley2525ykys@i.softbank.jp

年会費納入のお願いについて

当協議会の年会費納入にご協力頂き有難うございます。

令和4年度年会費は6月30日まで下記の振り込み先まで納入頂きますようお願い致します。

会費は、会の運営に関わる費用として使用されるものです。当協議会の総会及び自主活動、派遣依頼等は年会費を納入頂いた会員とさせて頂いております。

納入先

秋田中央郵便局 口座番号 02210-7-94390
秋田県障害者スポーツ指導者協議会

年会費
1,000円

編集後記

会報誌「チャレンジ」発刊にたり、会員の皆様にご協力頂き有難うございました。

今後も会報を通して様々な話題や情報をお届けしたいと思います。

皆様からの話題や寄稿を事務局までお寄せ頂きますようお願いしております。